
Natsu no iro
夏の彩


夏の彩
夏の彩
Natsu no iro

『もうお帰らなくちゃ』

『――帰れなくなっちゃう』

その後
どうやって
帰ったのか
覚えていない

おぼろげに
浮かんでくるのは

私の手を引く
かぐやの手の汗

髪についた
花火の焦げた匂い

はあ…

——いつもと
違う、大人びた
目をしたかぐや

かぐや

ぎゅっ

かぐやの目に
映った夏は

どんな彩だったの？

えへへ、彩葉～
なになに～？
急にどしたん？

ガチャ

あっつ～
早くエアコン
つけよ、いろ…

はっ

ちゃっ

ふっ

ん

彩葉、
まっ……

っ

ぴくっ

ふっ……

へ～

ドン

……っ！

ガチャ

びっ

いたっ

……

はぁ。。

……

はぁー

びくっ

はぁ

はぁ

いろ——

急に変なこと
してごめん

はっ…

全然
変じゃない、
嬉しかった

かぐやは
彩葉となら
もっとしたい

彩葉は？

すー…

……したい

……彩葉の
部屋、いこ

つ…ふ…

ちゅ

んっ

はあ…っ

カラン

はあ

はっ

ちゅ

はっ

ずるっ

ぐいっ

(はあ)

(はあ)

(はあ)

はぁ…
ぐっ
かぐや
ちょっと
待って
……もう、
がっつきすぎ
息させて……
でもキスって
こういう
もんでしょ
あんた
キスしたこと
ないでしょ
じゃあ
彩葉はした
ことあるの？
……ないけど
これが
初めて
ハキン

にっ

へへっ

そっか〜
えへへっ

……なんで
笑うの

嬉しいから

だって彩葉の
ファーストキス、
かぐやのもの
だもん

嬉しくて
にやけちゃう
当たり前じゃん

！

かあぁ…

……ばか、
調子乗りすぎ

……彩葉、
もっとキス
してもいい？

さっきより
上手くできるかも

ちゅっ

ん…

かぐやからのキスは
不器用で、勢い任せで
がむしゃら

ぐいっ

ちゅう♡

はあ……

ふにゅん

――でも、
その下手くそささえ
『かぐやらしい』と
思えてしまう

浴衣は
ぐしゃぐしゃ

セットして
もらった
髪も台無し

ちゅっ
ちゅっ
(ぴくっ)
ん…あ
びくっ

浴衣返す時、
なんていえば——

(はっ)
はっ
(はぁ)
やっ
ぺろぺろ
かぐ、や……
汗、きたな、い
んっ、彩葉に
汚いとこ
なんてないよ
(はぁ…)

エアコンすら
つけていない
部屋の暑さに、
かぐやの熱が重なる

ぽた
ぽた
はぁ
はぁ

頭がうまく
回らない

はっ…
ひゃ、
びく
ん
あ
ちゅっ

溶けるような
蒸し暑さの中で

びくっ

はぁ
はぁ

私たちの
熱さだけが
際立っていく

す、
えっ
ダ、ダメ！
見ないで！
え、
なんで？
イヤだよ、
その……
絶対変だし
？
だから何が？
彩葉の全部
綺麗だよ？
かあぁ！

……っ
そんなこと
言って欲しいん
じゃなくて
……
とにかくだめ

……わかった、
じゃあ見ないで
頑張る

ぐぐ

ぴくっ

ぐい

ちゅ

へっ

ビクッ

はっ…

はあっ…

くちゅ

っ……！

ごめん、
痛かった？

っ……

ちょっと
強すぎ……

じゃあこれは
どう……？

だい、じょう……ぶ

くちゅ♡

時折漏れる
自分の声
震える身体——

はっ

んっ

私に触れる、
かぐやの
見たことの
ない表情

必死に
刺激の波間を
泳ぐ私たちは

忘れたい
現実から
目を逸らして

ただ、
お互いを貪る

ん…

ちゅっ

ちゅっ

ん…ふっ

やり方も
感覚も上手く
つかめないまま

不安だけが
膨らんでいく

あ…っ

くちゅ

くちゅ

ん…

は…

何も
言えないくせに
しがみつく私を

彩葉

かぐやは
優しく
見つめている

はぁー…

ギクッ

ぐぐぐ…

びくっ

ハァ…

……あ～
お腹ペコペコ…
ってかあっち！
エアコンつけよ

家に食べ物
あったっけ……

ピ

食材あるし
かぐや作るよ！
何がいい？

じゃあ
すぐ食べれる
もので……

私たちは、
わざとらしい
くらい騒がしく
ご飯を食べて

あの熱を
上書きするように
いつも通りを
演じた

きっと、
明日も明後日も

この他愛のない
日常が続くのだと


――ただ、
信じたかった

かぐやは
帰りたくないって
言ってくれたのかな

私がかぐやの
すべてになれたら

ずず…

はぁ…

ぎゅっ

……かぐや

かぐや
っ

……ふっ

ぴくっ

か、ぐや……
っ

んっ

はっ

あ、

つ…
はっ…

ぐにぐに

ん。

ぴくっ

月から来た
はちゃめちゃな
侵略者は

私の平穏を
壊して

心ごと、
身体ごと
奪い去って

あっけなく、
帰ってしまった

誰にも
譲りたくなかった

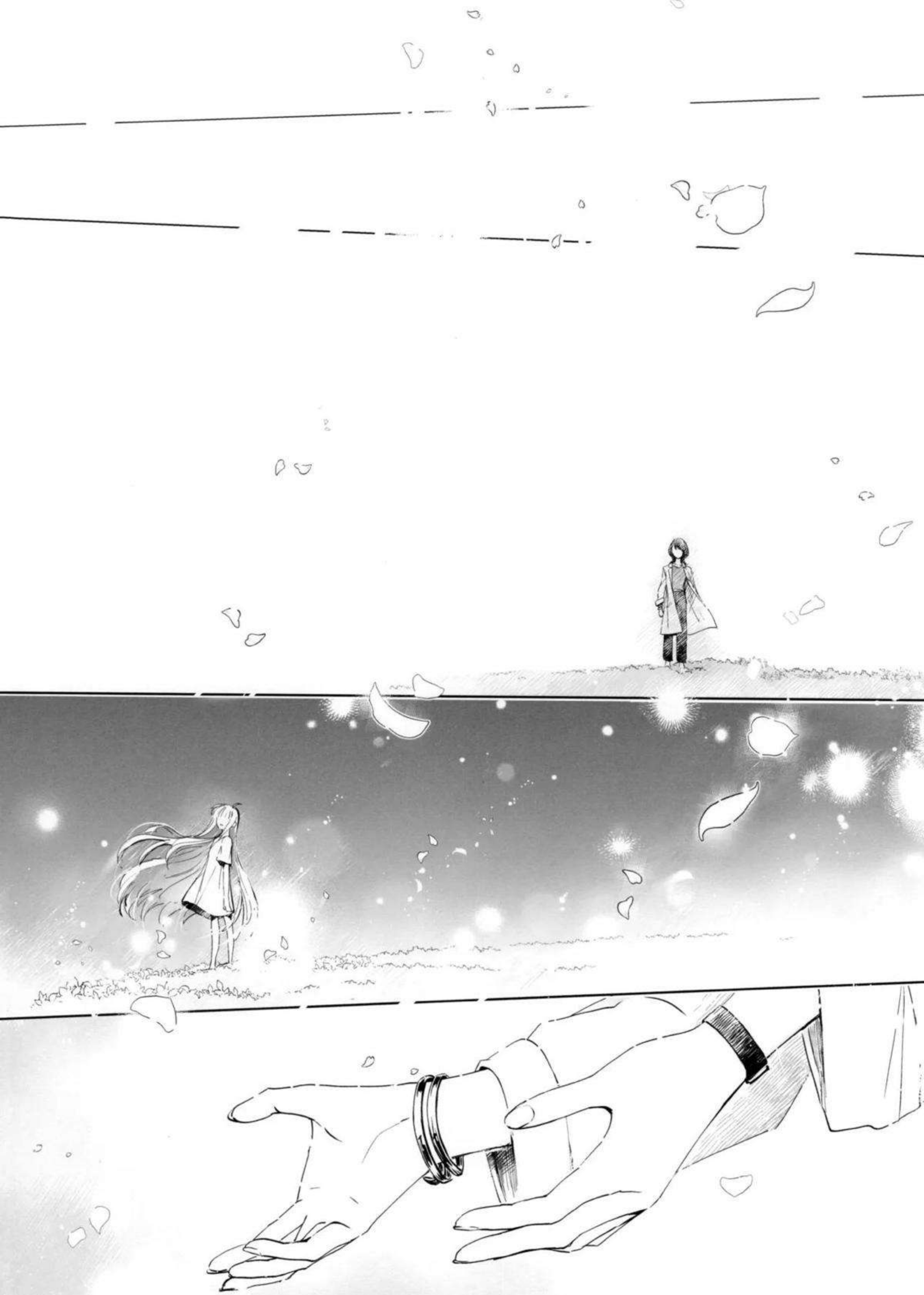
私に
笑顔をくれた
私の大切なひと

かぐや……

——私のお姫様

誰にも
譲りたくないほど
大切な人なら

私が
迎えに
行かなくちゃ





ドン

スゲェ〜

私は

花火より
かぐやの浴衣姿に
見とれて
しまうけどね

ここからでも
よく見える！
穴場だね〜

だね

はあ…

へへっ、
ありがー
んっ

……あの時は
へたっぴ
だったのになぁ
いつの間にか
こんな
上手くなって

それを言ったら
かぐやだって
えへっ

……でもね
かぐやは
あの日のこと
ずっと大事に
していたよ

とても
とても
大切で
大事で
忘れられない
思い出だから
……一緒だね、
私たち
――かぐや
私やっと
気づいたよ

かぐやの目には
いつも

ちゅ

はぁ

かぐやを見る
私が映っている

はぁ

あの夏から
すでに私たちは

くぅ

(はぁ)

くぅ

ぴくっ

ギュッ

ん…♡

ちゅ

はっ

お互いの彩(すべて)りに
なっていたんだ

ぎゅ

くちゅ

はー

びくっ

あっ

かぐ、や

はっ

す、き

すきだよ

ぴくっ

くちゅ

ぬちゃ

大好き……

あの時
言え
なかった
言葉も

いろはっ

んっ……

はっ

ぴくっ

あっ

っ……

くちゅ

くちゅ♡

今伝えたい
感情も

はっ♡

はっ

はっ～♡

ん♡

ふっ♡

んあ…っ

ふ…！

はぁ…

これから届けたい
気持ちも、全部——

すき……

ま

ま



——私のすべてを
かぐやに捧げるよ